

Combined Fleet Girls COLLECTION FAN BOOK

おしっここれくしょん 軽巡洋艦編 下

PISS-COLLIE
LIGHT-CRUISERS
Latter Part

Volume 08 for ADULT ONLY

連合艦隊旗艦 大淀のつぶやき

なかみ @cmd_O_lily
勤務終了。おつかれさまでした。

なかみ @cmd_O_lily
……

なかみ @cmd_O_lily
疲れたもおおおん！！！！

なかみ @cmd_O_lily
表で言いたい。盛大に言いたい。でもセルフイメージが……自意識過剰かなあ。

なかみ @cmd_O_lily
あの人の前ではこんな姿、見せたくないしね。

なかみ @cmd_O_lily
……そしてあの人がどう見てもエロ目的の検査の申請が届いて激おこなんですが。

なかみ @cmd_O_lily
いや私が怒る義理もないけど。……ないことになってるんだけど。

なかみ @cmd_O_lily
泣きそう

なかみ @cmd_O_lily
……

なかみ @cmd_O_lily
泣きながら自慰にふけると激しく興奮する。おおよどおぼえた

なかみ @cmd_O_lily
もう！ 私のこと好きなんだったら正面から来なさいよね！ うわ気持ち悪い

なかみ @cmd_O_lily
どうしてあんな人を好きになったんだろう。最初に艦娘になったのがあの人と私
でなかったなら。

なかみ @cmd_O_lily
そんなこと考えられない。だって、私の隣にはあの人がいたんだもの。ずっと。

なかみ @cmd_O_lily
好きすぎて轟沈しそう

なかみ @cmd_O_lily
明石さん

長良型四番艦 由良

下着姿

「夕張にヘンな影響受けちゃったのかしら」赤面しながら「際かわいい下着姿になった由良がジト目を向けてきます。夕張は同僚かつ心の友ですが、この件に関係あるかは……ん？」「おや？」「そのリストバンド、夕張とお揃いですね」「！」「恋する女の子はかわいいです」

胸部装甲・陰部

「姉さんたちほど……大きくないから」夕張ほどではないけれど白い肌を真っ赤に染め、向いて半脱ぎになる由良。なかなかどうして、夕張が「由良のおっぱいに頬ずりすると気持ちいいっぽい！」とご満悦なくらいにはいいモノ持っています。長姉の血を受け継いでいるのか、長良型は訓練好きで「肉付きもいいんですよ。末っ子のあぶちやんだけは猫かわいがりされてるせいかな、少々貧弱ですけど。ちなみに由良、陰毛は名取よりも濃いんです。でも夕張は……ホラ、小さい子が好きだから」由良の身体なんて魅力ないかも」

そっぽを



長良型五番艦 鬼怒

下着姿

「くまちゃんにエッチなこと教えるなんて！」五十鈴ちゃんなんかは元からちよつとエッチだけどさ、と頬を膨らませる鬼怒。彼女は戦争中も、十六戦隊でくまちゃんや姉たちと一緒にいることが多かったせいも、ちよつと甘えん坊なところがあります。まさに「J」という感じの下着や身体つきも、なんかピツタリで……いけない、私までロリコンに目覚めてしまえそう。

胸部装甲

「うーん、今日もふかふかー！あんげもう明石さんつてば！」五十鈴ばい名取ばいには遠く及びませんが、鬼怒ばいも年頃の子にしてはいい感じ。あと何年かしたらそれは立派な胸部装甲に成長するハズです。まあ、艦娘が人間と同じように成長するのか、いまだ研究途上だったりするんですが。あーいい手触り。

陰部

「うう、恥ずかしいようこの姿勢になると、うつつすらと繁る陰毛ではまるで性を覆いきれず、陰裂が露わになつてしまいます。」青葉がふざけて、「お風呂に入つてるとき写真撮ろうとしたことがあつてね。鬼怒、ちよつと足広げて身体洗つてたから、その……ここがモロに写つちやつてて。五十鈴ちゃんがじつくり見て『かわいい』とか言うし、もう恥ずかしくて死にそうだったよ！」口を尖らせる鬼怒ですが、どこか楽しげ。戦争末期、青葉とずつと一緒にいたのが鬼怒なんです。

性器

「広げますよ」「ん……」
 大陰唇を開きました。それに引張られて、指で
 小陰唇や膣口の周りの肉が複雑に形を変えま
 す。女の子のこの柔らかさが、明石は好きま
 ず。その必要なものなのか、艦娘は殿方ど
 して艦娘に必要なものなのか……艦娘は殿方ど
 交わられても子を宿せるのか……艦娘は殿方ど
 すが、私の指が沈みこむ陰唇のやわらかさに
 比べれば些細な問題です。



自慰

「五十鈴ちゃんにやりかた教えてもらって、時々……してる……」
 これは誰にも言わないでね？ やさぐれた青葉に無理やりされるのを想像しながらすると、すっごく気持ちいいの……。古鷹との仲を裂こうなんていう気はないよ？ むしろ、鬼怒も二人を仲直りさせようよと熊野なんかと一緒に走りまわったもん。でもあのころ、次々仲間を喪う悲しみに耐えて旗艦をやつていた青葉の背中に惹かれていた記憶は、たしかに鬼怒の中にあるの……たどえ、昔の記憶も艦娘の姿をしているのが、つくられた思い出の証拠なんだとしても」

放尿

「ちやー！ー。いかにも学校の制服じみた外部装甲を着けたまましゃがみ、地面に水溜りを作っていくさまは、もう完全にJの野シヨシ。これはかわいいけれど、まるきりアカンやつですね……あつ、明石さん！ おしっこ舐めたりしたら汚いよ！」



長良型六番艦 阿武隈

下着姿

「検査とか言つて、あたしたちの裸が見たいだけなんでしょう？ 変態」ハイご明察。どこかで聞き覚えのある言葉ですが、ははあ、あれは長く一水戦旗艦だった阿武隈の影響なんですわね。二水戦が切り込み部隊なら一水戦は戦艦護衛のエリート部隊。阿武隈も長良型の末っ子にしては、どこか気品があります。自前の下着も高そうだし！

胸部装甲・陰部

しかしてその身体は実際平坦であった！（どどーん）「なによ！夕張と同じ趣味だったの!?」いえさほどでは……。 「そりゃあ、五十鈴姉さんや名取姉さんに比べたら全然だけど、……う、潮ちゃんに比べてもアレだけど」撥ねた前髪がしおしおと。でも末っ子なんだし、というか姉たちが軽巡にしてはおかしいだけで、かわいらしいと思えますけどね。下の毛もまだちよろつとじか生えていなくて、割れ目が丸見えです。「もう、エッチ！」



性器

「す、好きに見なさいよ」
 あっ……ちよつとだいいぶ
 ムラツとききました。幼いぶ
 性器がほっそりした指で
 広げられ、まるで目立た
 ないクリトリスや薄っぺ
 らい小陰唇があらわに
 「阿武隈も……ひとり
 すること、あるんですか」
 「……ッ！ べつにあた
 し、誰のことも好きじゃ
 ないし」むきになる阿武
 隈。「北上さんは大井さ
 んとよろしくやっていれ
 ばいいし、多摩や木曾は
 お姉さんたちと……あ
 たしはひとりでも、全然
 平気……だし、なんだか
 ズレた答えですが、ふむ、
 なるほど……」



姉妹

「淋しかったのなら、ちゃんと
 そう言いなさい」「だ、だつて」
 「馬鹿ね……我慢なんかしなく
 ていいのよ。あんたは五十鈴の
 大切な妹なんだから」「い、五
 十鈴姉さん……」「泣かないで
 ホラ……いらっしやい。気持ち
 よくしてあげる」「んっ……」



放尿

「そっか。お姉さんたちと離れてずっとひとりで
 ばってたから、寂しかったんですね」「……今はみん
 ないもの。一緒にごはん食べてお風呂入って寝るし
 ……あたしはひとりでもやっていける子だからって、
 みんな思ってるから、そうしなくちやいけな。こん
 な」「えっ、どうしたんですかパンツ下げて……た、
 立ちション!? ああ、パンツにおしっこが」「こんな、
 ことしても……誰も面倒なんか、見てくれないのよ!」
 「馬鹿ね。そんなこと考えていたの?」「五十鈴!」

夕張型一番艦

下着姿

由良です。なんか、明石さんに言いくるめられて、夕張を脱がしちゃいました。夕張、10
 覚悟はしていたらしく、「撃つていいのは、撃たれる覚悟のあるヤツだけなのよ」とか
 なんとか言っています。「ヤケに気合い入った下着ね。いつもの安物はどうしたの」
 「……検査の話聞いたときから、由良が脱がしに来るんじゃないかって思ってた。そ
 れならせめて、かわいい下着にしよう。……って、どうしたの由良。真っ赤になつて」

胸部装甲

夕張との思い出はそんなによくはありません。演習で
 衝突。一緒に震災の救援活動や、上海事変への対応を。
 南洋公遠征に行く夕張に内火艇を貸してあげたり。ど
 れも大戦より前の記憶です。それでも、どうしてだろ
 う。艦娘になつた由良が一番心を許し、そして惹かれ
 たのは彼女でした。ロリコンだけど。……って、ヒ
 トの甲板胸見つめながらモノロイグ入れないで！」

陰部

夕張の下の毛くらは、いくらでも見たことがあります。
 性的な意味でなく女どうしだし。「二人ともふさふさで
 お揃いっぽい！」なんて夕立に言われましたが、そうい
 うあの子もけっこう……。だ、だから今鼻血が垂れてい
 るのは、スカート持ち上げてタイツとパンツを下ろさせ
 ているというシチュエーションのせいであつて。「……
 童貞」ぴく。ばかばりのくせにそーゆーこと言うのね？」

それなら由良にも考えがあるわ。私は指を鳴らしました。
 「シャイニシグガンダムでも呼ぶの？ ……って、え!?
 五月雨ちゃん!? 夕立!? しかも裸!」



性器

「ふふっ。夕張は痩せっぽちでゴツゴツしてるけど、ここはぷにぷにしてるっぽい」「や……あ」「夕張さん」「さ、五月雨ちゃん」「私だけ神棚に置かないでください。私のことも、睦月ちゃんたちや由良さんに対するみたいにくちな目で見て、はあはあしてください」「そんなこと……」「私も……夕張さんや、由良さんや夕立と、え、え、えっちしたん……ですよ?」「……あ。夕張、気絶したっぽい」夕張が由良をエロい目で

それなら、遠慮はいらないのよね?

愛浴交歓

好き、好き、すき、そんなたつた二音節幾度となく繰り返し、由良たちの身体をそのなかへ沈めていく。あまりにたくさんの「すき」が飛び交いすぎて、誰が誰を好きなのか、もうわからぬ。けれど、きつとみんながみんなを好きなんだ。と、由良は思う。さあ、夕張の「すき」をちようだい。夕張が大きく喘ぎ、しとどに濡れた陰裂から勢いよく尿が噴きだした。構えていた私の口めがけて、一直線に「あっ、ああ、夕張の「すき」がある。私を外から濡らし、裡から満たしている。目の前では興奮しきった五月雨ちゃんも、かっつて曳航で「ん……ゆ、らあ、由良の背中に熱い感触。気がつくくと夕立がまたがって、泣きながら、彼女の髪と同じ色の小水を放っている。私は微笑んで、下腹部の力を緩め、排泄されるに任せた。すべてが許される。そんな気がして、みんな泣きながら笑い、笑いながら性感とおしっこに浸っていた。

川内型一 番艦

下着姿

川内は不思議な人です。艦娘たちの共通見解は「夜戦バカ」。だけどもそれは半分照れ隠しみたいなもので、もし鎮守府で美少女コンテストをやったら間違いなく五本の指に入るであろうボーイッシュな魅力に、みんな一度はドキドキしてるとか。でもやっぱりバカ。ソロモンでもに戦った特型や睦月型の子には、指揮官というより一緒にセミ取りしたり草野球したりする近所のお姉ちゃんみたいなきなな感じ。一言では説明できませんね。



胸部装甲・陰部

「わ、私こういうのは...」
 瑞鶴いわく、艦装が吹っ飛ばうが意気軒昂という川内の動揺なんてきつと珍しいのでしうね。おっぱいは標準的。陰毛はさほど多くなく、まだあまり縮れが見られませんが、個人的に彼女のセックスアビリティは健康的な太腿だと思っ知らずで、本人はポイントに色気夜戦が好きなので、そのままたつね。「なんかエッチな子だっ

性器

「こ、こんなところ見たことも
見せたこともないよ」「あら、
光栄ですわね。じゃあ明石が一番
最初に見ちゃいます。……ん、
かわいいですね。左のひだのほうが大
きなんですか」「それって、へ
ンなの？」「個人差があるから
大丈夫ですよ。ねえ、ここを見ら
れたらドキドキするかもしれ
ない人とかいないんですか？」「
「じゃあ、わかんないよそんなの？」「
「じゃあ、ここを見たがっつてい
るかもしれない人とか」「……川内
さんの眼光が一瞬、鋭くなった
気がしました。……気づいて
聞いたんですか」「私も、青葉から
聞いたんですか」「私、青葉から



教育的指導

「あ、あつ」「そういうふざけたことを
言う、素直にもなれない子にはこうです。
おまんこ気持ちいいですか？」「き、き
もち、いい」「もつと感じて。身をゆだ
ねて。これが生きるってことよ。瑞鶴や
磯波ちゃん、神通や那珂ちゃんと、あな
たは生きなさい」



放尿

「そりや、夜戦前にはおしつ
こくらしいするよ……こ、こん
なふうには」「しゃあ、ぱしや
ばしや。」「パンツ脱がず、め
くって用を足すとか、狙って
るんですか！ そりや若い駆
逐の子がドキドキしても仕方
ないですよ」「そ、そうなの
かなあ……磯波も、なのかな
か？」「……応えてあげないん
だから。好きすぎて、昔
みたいに夜戦で死ねたら本望
だから。そのとき、あの子と
そういう関係だったら、きつ
ととても悲しませるから」

川内型二番艦 神通

下着姿

神通はちょうど、夜を徹しての出撃から戻ったところでした。生傷はあちこちにありますが、痕も残さず治るでしょう。それよりも「やっぱり、すごい格好ですよねそれ」。「え、そ、そうですか?」「サラ、シにふんどしって……まあオーデイナリーですけど、昔そういう写真集を出したアイドルがいてですね」ごによごによれずれず。「そ、そんな破廉恥な意味ありません!!」真つ赤になる神通。今や軽巡洋艦で最高の練度を誇る彼女ですが、内気で控えめな根っこは変わらないままです。

下着姿Ⅱ

せつかくなので、入渠後に普段の下着も見せてもらいました。「あら。シックでいい感じ」「そうなんですか? 五十鈴さんを選んでもらったんです」できるな、あやつ。

胸部装甲・陰部

「いいおっぱいですよねえ。下の毛もふさふさしてて」「は、恥ずかしい……です」「こんないい身体を、相変わらず犠牲にして戦おうとするんですね」「! どうして、それを」「後ろの二人に聞いたわ」「神通が振り返った先には、目元に怒りをたたえた陽炎と不知火。今日の僚艦です。

性器

「柔らかいね、神通さん。ここ、ふにふに」
 「や、やめて陽炎……」
 「ぬい、指挿れてみなよ」「すごい……です。不知火の指が唾えこまれるよう。膈内、とても熱いです。神通の生命、そのものだと……感じます」
 「やあ……っ、動かさ……ないでえ、出る……っ」
 「出しなさいよ。漏らしちゃいなさいよ! ほらッ!!」
 「あ……っ!!」
 「熱い……熱いは、神通さんのおし……っ……」
 「こんなに全力で生きてるのに、ぐすっ、生きたいハズなのに、いつまであんな戦い方を……あたし、許さないからあ……」

水雷戦隊

「どうして!! どうしてまた会えたのに、あたしを置いていこうとするのよ!! あたしが、昔、先に逝ったから!? 当てつけなの!?」「違う!!」
 「不知火など、二度も先立たれることになりません。そんなのは……うっ、イヤ……よ……」
 「そんなつもりは……ないけど……でも、私は結局、こういうやり方しか知らないから……これが水雷戦隊旗艦の役割だから!」「バカ! 探照灯なんかなくたって、あんな連中潰せるよ!!」
 「少しは自分の部下、ううん、仲間を信用してよ!! あたしたち……神通さんと一緒にいたいよお」
 「……ごめん、なさい……っ」

明石は、複雑な思いでこの愁嘆場を見つめていました。私は、直す側、見送る側だから、究極的には、戦闘艦の気持ちは、私にはわからないんです。

川内型三番艦 那珂

下着姿

「川内ちゃんや神通ちゃんはいよいよね」那珂ちゃんが「オフ」のアンニュイな表情を見せてくれる数少ない友人のひとりがこの明石なのは光栄です。「明石さんはよく覚えてるでしょ？」那珂ちゃん、戦争が始まってすぐに魚雷にやられて、一年もかけて直してからはずっと荷物運びやつてたの。神通ちゃんや川内ちゃんや那珂ちゃんが夜戦でどっか行機に追い回されて……今でも思うんだ。最後は阿賀野ちゃん助けようとして、ドラックで飛ん！

胸部装甲・陰部

「綺麗」「ヌード撮らせてあげる人なんてほとんど居ないんだかね？」「ありがどう。……この小ぶりなおっぱい、いつも刺つてツルツルのあそこ、明石は好きです。それが、見られなくなるのは……イヤ、です」「明石さん、どうしたの？」「ごめんね、泣かない泣かないで」「うううううい、

性器

「ホラ……明石さんの見たいところ、見せたげるね」つい感情が爆発してしまった私を気が遣って、那珂ちゃんが一生命、陰裂を、広げて見せてくれます。少し大きめの陰核包皮、厚めでプルプルした小陰唇。「ア、アイドルのおまんこだよ……っ、うう、恥ずい」

「……心配しないで。那珂ちゃん、最後は夜戦で沈みたいけど、それまでは全力で生きるつもりだから。こべ来て、右も左もわからないところにテレビで観た女の子たち、すっごく輝いてた。なんか、しっくり来たんだ。那珂ちゃんも、この身体でじこうしたいって、全力で生きて、輝いて、そして最後は華々しく散るの！」

放尿

「知ってる？ 明石さん。アイドルはう……その、大きいのはしないんだよ。でもね、小さいほうはするの！」しゅううう……「ふふ……那珂ちゃん、おしっここの勢いすごい」「ぜ、全力だから！ おしっこも全力なの！ もつと、出るから」じよろろ……「びちゃびちゃ……」「わっ！ す、すくって舐めちゃうの!? ……ど、どう?」「ん……なんか、輝いてる人のおしっこだなんて」「何ソレ」ふふ、と笑いあう私たち。

自慰

「はっ、はっ、はっ、……ア、アイドルだって、オナニーするん……だよう」そりゃあ、娘の身体を持つ以上、性欲は多かれ少なかれ備わりますしね。よくマイクみたいな持ち方をしている魚雷の一端が彼女の膣内をかき混ぜ、白濁した粘液がぐっしよりまとわりついていきます。那珂ちゃん、もう登りつめる寸前。「あ、あ、あーっ……」ビクン！ と腰が撥ね、魚雷を膣から押し出してしまいました。「おつかれさま。気持ちよかったです」「うん……那珂ちゃん、す、すご……生きてるう……」

阿賀野型一 番艦 阿賀野

下着姿・胸部装甲

「明石さん、阿賀野です。よろしくお願ひしましす」「はいはい……って、あなただけは!?」「ふえ?」パンツ一枚の阿賀野、たわなに熟れた南洋の果実のよう……。胸元の双丘をキョトンと見下ろし……。「きゃあ! また忘れちゃった!」はあ……。艦娘みな、前世が前世だけに、ブラジャーがしっくり来ない子がそれなりに居たりします。それも何故か、発育のよい中型艦、大型艦ほどノーブラで闊歩する傾向に……なんとか当世風の風俗に適応すべく努力してはいるんですけどね。

下着姿Ⅱ・陰部

「失敗、失敗。また能代に怒られちゃった。もう言つてブラをつけて阿賀野。ですが、すでに私の指示によりパンツは脱ぎ捨てられてしまふ。陰毛はやや広めに生えていて、その奥には陰裂からわずかにみだした小陰唇が、別にこの部分に限った話ではなく、軽巡洋艦にしてはやけに大人びた身体を持つて活躍できたか、また別として、「昔のことは、です(※酒匂ちゃんを除く)。またがんばればいいんだから!」「そうそう!」げえっしょうがないよ。あ………気にかけていたんですね。阿賀野のこと。」



性器

大またを広げた阿賀野の、左のおまたにさらに手を添える那珂ちゃん。「さあ阿賀野ちゃん、くぼあつてしようね」「う、うん」阿賀野の指で小陰唇が直接押し広げられ、私の目前に彼女の肉性器が晒されました。「うん、阿賀野んこ、今日もカワイイ!」「でも……びらびら、色が濃くて大きすぎない?」「大丈夫だよ。那珂ちゃん、この厚いエッチなびらびらを吸ったりつまんだりするの、大好きだもん。能代ちゃんだつて、ここ、好きだよゼツタイ!」

放尿

「阿賀野ちゃん、いっつもドックでおしっこしてるでしょう?」那珂ちゃん見てるよ。カワイイけど、那珂ちゃんみたいになりたいのなら、少しガマンも覚えなくちゃダメだよ。「あ……っ、そこ、くりくり……いっちなに漏らしちゃう」「ガ・マ・ンです! あと十秒ね。いっちなに……しよわわわわだんだん長くなつて、あつ、ああ、ああ……しよわわわ……「ふふっ、阿賀野ちゃん赤ちゃんみたい……しよわわわわな、全部しーしーしちやいなさい……」

那珂、阿賀野を語る

「正直……那珂ちゃん、阿賀野ちゃんにどう接していいか、わからなかったの。ううん、怖かった。あのとき助けられなかったのに、助けに行こうとしたつてだけで、那珂ちゃんのことをごんごんに好きになつてくれるなんて、つて……なんだか、古鷹ちゃんに対する言葉ちゃんみたいだよ。川内ちゃんや神通ちゃんに励まされて、向きあつて、一緒に泣いたり笑ったりして、それで、いまは阿賀野ちゃん、那珂ちゃんの弟子、まずは那珂ちゃん直伝の『きりりん☆』を極めるところから!」いつかね、二人で、ううん、五十鈴ちゃんや能代ちゃんや矢矧ちゃんも誘つて、盛大にライヴやるうって、そんな話してるんだ……そのエッチのあととかに、ね」

阿賀野型二番艦 能代

下着姿

「昼からお盛んね。阿賀野姉」眉間にしわを寄せる、阿賀野の世話係こと能代。「世話係言うな。阿賀野姉が何かを目指してがんばるのは……まあ、妹として嬉しいし、誰かと深い仲になるのも応援……してるけど」ぼそぼそとつぶやく能代、全身からかまうてオーラが湧きだしています。たまには、姉に甘やかされたいですよね。それにしてもなんというか、レス力の高い下着。

胸部装甲・陰部

「は、恥ずかしいんだから、あんまり見ないで……」。「大丈夫よ能代、阿賀野もいっしょに脱いでるから」。「なにが大丈夫なの!?」珍しくうるたえている能代をふんわりと宥める阿賀野という、貴重な光景です。こうして見ると姉妹で体格に差がありますね。能代は阿賀野よりは脂肪が少なめで引き締まった身体つきですし、おっぱいは阿賀野が少し垂れ気味なのに比べて張りがあり、乳首がツンと上を向いています。陰毛の生え方も、阿賀野が「横」なら能代は「縦」。いずれも、立派に大人の女性の身体です。最新鋭軽巡だったことに加え、彼女たちをこういふ身体にせしめたのかも、念のようなもの、彼女たちをこういふ身体にせしめたのかも。

性器

「今日は阿賀野が能代のお世話をしてあげてね」瞳に妖しい光をたまためた阿賀野、下半身だけすっぱいぽんぽんの能代を、ころんと転がしてしまいましたが。「足は自分で持つからね。阿賀野がおまねえ」能代はもうすっかり蕩けきった。「おまんこです！」「うっわあ、柔らかなおまんこです！」「うっわあ、柔らかく濡れてるし！」「エッチですね。阿賀野に触られて嬉しいですか？」「あ、あ……」の、能代？」「あ……」あ……、今のでイツちゃっただんだ……。気持ちよさそう……」「能代かわいい……穴がひくひくしてる」

放尿

「シモのお世話もしないよね。よいしょ」見かけによらず力持ちな阿賀野、能代のひざの下に両手を差しこむとあっさり抱えあげ、そのまま開帳させました。明石の目の前には、まだイッたときの余熱が残つていそうな能代の性器が。「さ、ちっちゃいし、あんな、でも……明石さんにかかっちゃう」「明石のことならお気になさらず！むしろご褒美ですから」なんとなく大淀風にドヤ顔で親指を立ててみました。「う……」阿賀野も後ろから見るとからね。能代のおしっこ。阿賀野が耳元で低くささやくと能代は一気に紅潮。そのまま、びゃー……と尿を飛ばしはじめました。「ふあ……い、いっばい出る……」「いっばいんですよ、私の仕事場なんですから、いくらでも床めがけておしっこしちゃってください」「えう……じよろろる……」「ふふっ。二水戦旗艦だった能代が、阿賀野にお世話されておしっこするなんて。かわいい」「阿賀野の妹だもん。強くてかわいいに決まってるでしょう？」排泄が終わるまで、それからさらに十秒もかかりました。

「阿賀野……能代……」能代の後を継いで最末期の二水戦旗艦を務めた三女・矢矧が、複雑な表情で明石たちを見つめていました。



阿賀野型三番艦 矢矧

下着姿

「ついでにいけないわ。阿賀野も能代も、明石、あなたも。そもそも鎮守府全体が。時局認識不足よ」鋭い眼光を私に向け、姉二人とはもはや似ても似つかない、日々
の過酷な自主訓練で鍛えあげた肉体を持って余すかのように嘆息する矢矧。私は静か
に首を振ります。「それは違うわ。何度も言っているけれど、時局認識不足はあな
た。今は確かに深海棲艦と戦っているけれども、昭和二十年の続きではないの」矢
矧の顔が曇ります。彼女のようには、ほぼ末期戦しか経験しなかった「若い」艦娘は、
現代に適応しきれないことがあります。矢矧はそのもつとも深刻な症例でした。

胸部装甲。陰部

ともすれば、再び二億総特攻の魁として悠久の大義に生きようとする矢矧。彼女をはねつ
かえり程度に落ち着かせるまで、ぶんだ変でしたし、阿賀野も能代も、何度も涙を流し
ました。「気にするな明石。そして、最大の功労者はおそらくこの人。」「また駄々っ子が
騒いでいるようだ。大和がいまだ姿を見せず、姉たちは二人でイチヤイチャ。淋しくて
へそを曲げたか？」磯風……不敵に笑う武勳艦にをにらみつける、最後の二水戦旗艦。
その視線にはなるほど、拗ねた雰囲気を感じられます。艦歴で言えば、最後の二水戦旗艦
のように竣工した（私は昔の彼女を直接知りません）矢矧のほうが若いんですよね。



性器

「おお、矢矧のここは柔らかいな。ひだがこんなに伸びるぞ」「やっ、やめてよ!」「矢矧。磯風とえっちをしよう」「は!?」「最近、妹たちとよくえっちをする。えっちはいいぞ。気持ちいいし、自分が生きていくこと、生きていていいことを身体の底から実感できる」「そんなの……」「矢矧。生きていいんだ。再び『軍艦』として死に赴く必要はないんだよ」「あつ……」「ホラ。ここをつまむと特段、気持ちいいだろ?」「娘」でもあるんだ、この磯風も、矢矧も、みんなも……」「あの人たちは嬉しうと、喜んでくれる。そう、信じている」

放尿

「ど、どうしてこんなところを見たがるの!?」「えっちなだから!」「許せ矢矧。この磯風、戦いのこと以外にえっちなことでも嗜むようになって、楽しくてたまらないのだ。こうして矢矧とえっちができる……あのとき、助けられなかった矢矧と。なあ、磯風は、嬉しいんだ」「……」「だから、磯風たちとともに生きてくれ。大和が着任したら、そして、冬月たちも来たら、みんな沖に出よう。そして好きなどころへ行こう。すべて、赦されているんだ」「……う、ううああ……」

妹

「ああ……気持ちよかったよ、矢矧。何度も気を遣ってしまった」「私、私……」
「図体のかい妹のようだな、矢矧は……」
「くかんのくせに……」「艦歴は磯風のほうが長いよ。……阿賀野や能代には、磯風からも一言言っておこう。姉たちと向き合う前に、まずはこの磯風に甘えるがいい。泣き言もひと晩中だつて聞いてやる。だから、安心して酒匂の『姉』をやれ」

阿賀野型四番艦 酒匂

下着姿

技術本部から戻ってきた酒匂は、白いワンピースのままでした。脱がせると、ほとんど骨と皮ばかりの痩せた身体があらわに。「だいぶ肉がついたわね」矢矧が呟きます。顕現したばかりの、誰もが目を背けてしまったときに比べれば、酒匂はずいぶん健康体になりました。いずれば、姉たちと同じくらいふくよかな身体に育つでしょう。……核実験は、艦娘・酒匂をもあらかじめ破壊していました。

胸部装甲・陰部

姉に比べればやや小柄ですが、他の軽巡よりは長身な酒匂の、それゆえにいつそう細さの際立つ裸身を守るように、全裸の矢矧が傍らに。「明石……酒匂、綺麗かしら」はいい。かわいいです。どこかすがるような矢矧の問いに、私は神妙に答えました。夕張ほど真剣に情熱を持つては語れませんが、駆逐艦と言われても納得しそうな未発達な乳房、少し濃いめの産毛が目立つだけの陰部と桃のような割れ目。綺麗です。多少の興奮も覚えます。……興奮していいのかしら。私に、その資格はあるのかしら」矢矧は目を伏せます。酒匂はじっと姉を見ている。



大淀型 一番艦

下着姿

「……堪能できましたか？ エロ工作艦さん」「い、いやあおかげさまで」ジト目を向けてくるラブリーマイエンジェル大淀たん。彼女にとって明石は、なにかとシモに走る頭痛の種。艦娘になつてから、一番長い腐れ縁。気がついたら生まれたまの姿で現代に放り出されてい、だらいまわしの末提督に拾われ、最初の駆逐艦が現れるまでのあいだ、右も左もわからないなか、二人だけで手を取りあつてやつてきた、……「……いいかげん、私の前でそういうポーズはやめて。私ね……ずっと、待ってた。明石さんに手を出してもらいたかったのよ」アイエツ……

胸部装甲・陰部

「そもそも。あんなわかりやすい裏アカウント、私が把握していかないわけじゃないでしょ？」胸が甘いのはあなたは「え……だつてフオロワロだし」「非公開リストっ」「死なせてえ!!!」絶対イヤ！ そんなこと、冗談でも言わないで！ 川内さんたちには生きるつて言つてたくせに!! 「……見てたのね……」「言つたでしょう？ 私
が把握していかないわけがないつて」

「……あなたの見たかったものよ。明石さん」「……大淀。毛が、濡れ」
「……あなたの見てたら。こうもなります。……何回も、ひとりでしたわ」「!!」私……あなたの神棚に置いてほしくない。そんないい子じゃない。他の子と同じように……ううん。他の子にすること、私にだけ、してほしい。私のことがほしいなら、私にだけ、欲望を向けて」

性器

「ね、明石さん」からからにび割れた声で、けれど熱を帯び潤んだ瞳で、大淀が陰裂を大きく広げ、「私の……お、まんこ、どんな風だか、教えて」私も絞りだすように、「色が、くっつく濃いです。花びらの。クリは小さい。穴は狭くて……すごく濡れてて」その言いながら、膣口を軽く撫ぜると、「あっ……！」ごぼり。「うあ……すごい、濃い白いのが、どろろって」

「羞恥で震える大淀。ややあつて、「だつて、明石さんの指が……触る、から」……「三人とも、絡みもしないうちから、息も絶え絶えです。」

地上より永遠に

「あかしさん」「はい」「……こしがぬけた」「……あれから皆さん、シましたからね……私も七十年くらい動きたくないです」「きもち、よかつた」「私も……大淀のおしっこも、おつゆも、汗も涙もよだれも、おいしかつたです」「へんたい」「……大淀だつて、あんな」「いわないで」「……はい」「あかしさん」「はい」「すきです」「……私も、好きです。大淀」

放尿

「じよほじよほ……やや下品な音を立てて排泄される、大淀の濃いおしっこが、工場の床に大きな水溜りを作っています。立ちこめる、キツめのアジモニア臭。「明石さん、すごい顔……」興奮のあまりぼろぼろと涙をこぼす大淀。自分は裸のまま、愛する人の放尿を見据えながら秘所を激しく責めたりする私は、きつと獣のような顔をしているのでしよう。二やだ……すごくおしっこくさい……」「ガマンしてたんですか……？」

「検査の申請を受けて、きつと……こうなるつて、思ってたから。いっぱい溜めて、いっぱい出して……あげようつて」「……！」不意に電流が走り、私は声も出せずに達してしまいました。「あ、明石さんっ」「しやがみこむ大淀の腰も撥ね、尿が私まで飛んできました。三人とも、限界はどつくに超えていました。」

香取型一番艦

下着姿

陽炎型駆逐艦、野分です。その……緊張、しています。目の前に、下着姿で微笑む香取さんが。「明石さんと久々に盛り上がってしまいました。話がついてるわ。よく見てね」「は、はい」大きなお胸や、豊かな腰を覆う、とっても大人っぽい下着。なかなか直視できません。野分、いくじなしです。……あの日、見届けることのできなかつた野分に、いまさら見る資格があるとも、思えません。

胸部装甲・陰部

「ふああ、おっぱいやわらかーい！ 野分も触ってみなよ！」「あんー！こころら舞風、やめなさいって！」舞風が目を輝かせながら、香取さんのお胸を遠慮なく採みだしています。二人とも、そして野分も生まれたままの姿。あ……あんなに形が変わるんだ、おっぱいって……下の毛も、陽炎姉さんや浦風姉さんより多いじ。舞風……ほんとにつるべただね……はあはあ。

性器

「野分さん。自分の身体のごときは、ちゃんと知っておかないとダメよ。舞風さん、もつと広げていいわ。ん……一番上の突起は何かしら？」
 「く、くり、とりす」「正解です。その下、ひだをさわってみて、どう？」
 「……厚みが、あります。はい」「私は、ね。小陰唇は個人差が大きいです。では、おしっこはどことから出るかわかりますか？」
 「……えと、どこ、でしよう」「あん……そこは膣よ。おしっこはね……」

「さて、じゃあ、三人でおしっこ、しましょうか」

放尿

裸でしゃがんだ三人の下腹部から、三本の水流が噴きだしています。舞風がドツクでおしっこをするのはじよつちゅうなので慣れてしまいました（恥ずかしながら、一緒にします……）が、香取さんまで一緒とあつては……顔から火が出そう。……火が！「野分、どうして泣くの？」そう言う舞風の頬を、幾筋も涙が伝っています。「野分さん、舞風さん……また会えて、一緒にこんなことができ、香取は嬉しいです。香取さんもしゃくり上げながら言葉をつむぎます。野分はいよいよ胸がしめつけられ、「香取さん……舞風……置いていって、ごめん、なさいっ」「いいのよ。よくがんばりましたね」「また一緒に踊ろうか？」
 「うっ、うああああ」おしっこを出し終わったあとも、三人でしばらく、おいおい泣いていました。……でも幸せ、でした。

夕雲型十六番艦 朝霜

下着姿

つい先日、わが鎮守府に夕雲型駆逐艦・朝霜ちゃんが着任した。大和さんは未だ居ないと知り、少し残念そうにしていたけれど、清霜ちゃんや霞ちゃん、初霜ちゃんといった昔なじみと再会できてずいぶん嬉しそうだった。ちっちゃい天龍みたいでぶつきらぼうだけど、喜怒哀楽がストリートなだけでとってもいい子。今だって、私のお願いに素直に従って「……で、なんであたいが裸にならなきゃいけないんだよ？、変態ってやつか？ オマエ」「オマエじゃなくて、ユ・ウ・バ・リ・さん」オホシ。夕雲型ではいっとう大柄だけど、体格はまだまだ。尊いわ。

胸部装甲・陰部

「おう清霜、こっちは来いこっちは。夕張が写真撮ってくれるってよ」
「イエーイ」とVサインを寄越す全裸の少女二人。無意識にやってくるけどそれ敵国のサインだったわよねとかそんなことはどうでもよく、ただただ眼前の光景の尊さに目を奪われる。目下発育中な朝霜ちゃん、おっぱいは乳首を中心に尖り気味で、全体的にあちこち鋭角的な身体つき。割れ目の切れ込み具合もそう。もう少し脂肪が多めで、かなりの体質な清霜ちゃんと好対照をなす。そう、割れ目が違うのは、割れ目が……「なあ清霜、この軽巡大丈夫なのか？」「うーん、悪い人じゃないのよ、悪い人じゃ……」「ホントかよ」



自慰

「あ、なになんかヘンだ」「気持ちいい？ 朝霜ちゃん。あなた今オナニして居るのよ。清霜ちゃんも私も霞ちゃんたちもみんなしてる」「なんで、で」「気持ちいいから。こうして生まれ変わったんだもの。気持ちいいことたくさんしていいのよ。私たちが……そろそろイキそうね。清霜ちゃん」「うん。朝霜ちゃん……いつばい気持ちよくなつていいよ」「ふあ、あ、あ……っ」「すごい濡れやすいんだね朝霜ちゃん」

性器

「オ、オイなんだこれ!?」「まあその、身体検査……的なの?」「やっぱり変態じゃないか! 悔い改めろ!!」「まあまあ。清霜もここ、夕張さんに見せたのよ」「!?」「ふふっ。朝霜ちゃん背は大きいけど」「ここはちづちゃいね。夕張さん、清霜のと違うでしよう?」「ええ。お豆さんは清霜ちゃんのほうが大きいものね。でも」「ひゃッ」「このひだは朝霜ちゃんのほうが厚いかな?」「んー……ホントだ」「なんで冷静なんだよお前ら!」

放尿

「清霜と一緒にシヨンベン……かあ。ヘンなの」「清霜、ずっと楽しみにしてたのよ。朝霜とこうしたくて」「そりやどうもんじや、出すか。せーの……」「しよろしよろ、じよばああ。姉と妹が同時に放尿を始めた。清霜ちゃんは盛大にイッたあ。だからかあまり勢いがない。それに比べて清霜ちゃんのおしっこ、やたらと元氣よく前へ。」「おお、すげーな清霜! お前マジで戦艦になれるんじやね?」「軽口を叩きつつ、朝霜ちゃんの視線は尿を噴きだじつづける清霜ちゃんの割れ目に固定され、興奮のあまり涙を溜めている。「えへへ……いつばい出ちやつた」「排泄を終えた清霜ちゃんがかむ。」「……」その夜、二人は部屋がおしっこまみれになるようなセックスをして、早霜ちゃんにたいそう怒られたそうである。混ざりたかった……」



君の光と僕の影

R-18

君の光と僕の影
2014.08.15.
ふたなり古鷹青葉



おしっこれくしょん 駆逐艦編
2013.12.30.



おしっこれくしょん 駆逐艦編 参
2014.10.19.



おしっこれくしょん 駆逐艦編 弐
2014.05.25.

艦隊これくしょん本 既刊一覧



おしっこくしょん 軽巡洋艦編 上
2015.01.25.



由良もいろいろ試したい
レビュー版
2014.11.30.
ふたなり由良張

以下続刊

比叡×榛名・瑞鶴×川内・
青葉@第十六戦隊などを予定



おしっこくしょん 駆逐艦編 四
2014.12.29.

おしっこれくしょん 軽巡洋艦編 下
Combined Fleet Girls Collection FAN BOOK Vol.08

発行日 2015年03月01日

発行サークル LUNATIC PROPHET
web <http://circle.lunaticprophet.org/>
pixiv id=92903

発行人 有村悠 Yuu Arimura
e-mail edgeoftheseason@gmail.com
twitter id=@y_arim

印刷所 株式会社サングループ
web <http://www.sungroup.co.jp/>



produced by Lunatic Prophet
2015.03.01.

××××にあまり触ったら
危ないですよ?.....あつ!
そこはもっと危ないです!